

インタビュ―

総合食品容器メーカー

カーの北原産業（岡

山県倉敷市、☎08

6・526・304

0）は、プラスチッ

クと紙の両方に精通

した同社ならではの

強みを発揮した製品

提案で、業界におけ

る存在感を強めてい

る。積極的な開発姿

勢を示し、常に高み

を目指す同社の代表

取締役・北原忠氏

に、事業戦略と展望

を聞いた。

食品容器業界の現

況については、原料

価格や諸経費の値上

がりに伴う価格改定

が一巡し、ようやく

落ち着きを取り戻し

たように思います。

当社においても取引

先への粘り強い交渉

や経営の合理化に取

り組み、影響は微少

にとどめることがで

きました。しかし市

況はいまだ安定感を

欠いており、懸念す

べき材料が多く見受

けられます。



北原産業
代表取締役
北原 忠氏

加えて、業界が直

面する大きな課題と

言えるのが、海洋プ

ラスチックごみ問題

です。食品容器は消

費者にとって身近な

存在ゆえに重要性を

認知されにくく、単

に「悪者扱い」されて

いる現状は極めて遺

ます。引き続き製品

充実努め、顧客の

支持を一層強固なも

のにしたい考えです。

また、化成品分野

で最優先すべき開発

テーマの一つと据え

るのが、バイオマス

プラスチックの活用

です。これまで培っ

ンドイッチ容器「K

SW」シリーズに追

加した三角タイプ2

種は、テープ貼りの

手間を削減できる外

嵌合蓋の採用によ

り、中小規模のカフ

エ業態などが求める

「手作り感」の演出

と作業性を両立した

れる「外食ビジネス

ウィーク」にも出品

を予定しています。

いずれにしても、

強みとする開発力に

さらに磨きをかける

ことが、業界におけ

る競争力の強化につ

ながると考えます。

独自性の高い提案を

促すべく、今春には

開発部門の人員を拡

充しました。新たな

感性による開発が、

成果に結び付いてい

くものと期待を寄せ

ています。

開発への注力で独自性鮮明に

“環境”テーマに事業戦略を推進

憾です。しかし環境

への意識がますます

高まる中、市場動向

をしつかりと見極め

る必要性も認識して

います。当社におい

ては適切な対応を図

るとともに、戦略的

な事業展開により企

エアトッポを目指し

てまいります。とり

わけ仕出し弁当など

の用途で需要を増や

している紙製ボックス

ス容器や紙トレイ、

紙中仕切りなどは、

同業他社に抜きん出

た品ぞろえを高く評

た経験や知見、技術

力を生かし、製品化

に向け試行錯誤を進

めています。

他方では、食品産

業のさまざまなマー

ケットニーズに応え

た化成品の開発にも

意欲的に取り組んで

独自製品として提案

するものです。

すでに外食産業向

けの展示会でアピー

ルを行った際には、

主力の透明嵌合容器

「タイトカップ（ス

リム）」と共に、強い

手応えを得ました。

当社はこれまでも、

消費者の豊かな食生

活を支える製品を提

供してきたと自負し

ています。今後も食

品容器メーカーとし

ての誇りを強く持ち、

多彩な食シーンの創

造に貢献してまいり

たいと思います。